

令和8年度 第1回 学校運営協議会 議事録（要約版）

日 時： 令和8年6月18日（木） 10:00～11:50

場 所： 北海道真駒内養護学校 会議室

出席者： * 学校側： 7名

委 員： 7名



1. 開会および校長挨拶

副校長の司会により開会が宣言され、着任した仲條校長より挨拶が行われた。

仲條校長 挨拶要旨：この4月に17年ぶりに本校へ着任した。子どもたちや教職員の様変わりを新鮮に受け止めつつ、現在は前任校長の方針を継承している。この3ヶ月弱で気づいた課題や新たな取り組みについても後ほど説明し、皆様から率直な意見をいただきながら、より良い学校経営につなげたい。

2. 日程説明および連絡事項

副校長より、本日の次第とともに以下の連絡事項が伝達された。

辞令交付の延期：北海道教育委員会からの辞令交付は、行政手続きの遅れにより次回(第2回)へ延期する。

記録への配慮：写真撮影・音声録音を実施。学校ホームページ等への掲載に不都合がある場合は申し出ていただきたい。

PTA 会長 挨拶要旨：保護者目線での課題として「教員と保護者のつながりの薄さ（心理的距離）」を感じている。先生方の素晴らしい取り組みが伝わっていない現状を打破するため、本業で開発中の「双方向の連絡管理アプリ」を実証実験として学校で活用し、写真や書類の共有を通じて信頼関係を強固にするチャレンジを行いたい。

3. 学校運営協議会 規約説明および役員選出

副校長より規約の要旨（設置根拠、地域連携による社会参加と街づくりの目的、委員が特別職の地方公務員であること等）が説明された。

規約に基づき役員の選出が行われ、会長に朝倉氏（PTA 会長）、副会長に山名氏（町内会長代表）が提案され、承認された。

4. 学校運営に関する基本方針・重点等の説明

仲條校長より、今年度のグランドデザインおよび学校経営方針の説明が行われた。

① 学校の基本情報・教育目標

開校65年目。児童生徒数119名、寄宿舎生7名、教職員総数140名、スクールバス3台運行。「人と繋がりを大切にし、自分の考えを持ち、自分の考えを伝え、自分で考えることにして、やり遂げる」を教育目標とし、北海道の教育ビジョンを土台に共生社会の実現と自立・社会参加を目指す。

② 今年度の重点目標とスローガン

重点目標は「一人一人のウェルビーイングの向上を目指した教育活動の推進」とし、合言葉「キープ・オン・スマイリング（笑顔でいよう）」を継続する。トップや教員が常に機嫌良く、笑顔で子どもと接することが教育の質を高める根本である。

③ 5つの重点における具体的アプローチ

外部への情報発信と連携強化：学校の情報が外へ広がらない課題への最重点アプローチ。

ICTの活用と評価の充実：「使って終わり」にせず、子どもの変容を「評価・蓄積」して次へ活かす。

カリキュラムマネジメント：校内での学びを、校外学習や交流の場で一体的に発揮させる。

安心安全と環境：不適切な関わり（マルトリートメント）の防止、教員の心理的安全性確保。

④ 職場環境改善と「真駒内キラキラ大作戦」

4月に教職員ワークショップを実施し、学校の強みや改善案を抽出。生成AIを用いたテキスト分析（ワードクラウド）により共有した。その際、「大人ができること」として出現した「大人がバカになる（ワクワクすることを仕掛ける）」というマインドセットの具体化を模索している。

⑤ 提案アイデアのタイムライン

【すぐできること】：自販機の設置、地域巻き込み型避難訓練（保護者引き渡し訓練等）のシミュレーション、会議効率化、地域資源（近隣店舗等）の活用、連絡アプリ「tetoru」の導入（発信の強化）。

【年度末までにできること】：煩雑な個別指導・支援計画類の精査・整理、通知表の「中間検証」の導入。

【来年度からできること】：「チーム担任制（全員担任制）」の導入に向けた慎重な検討。

今年度の学校経営方針および重点目標は、委員一同の拍手をもって承認された。

5. いじめ防止対策についての説明

教頭より、本校の「いじめ防止基本方針」と未然防止の取り組みについて説明が行われた。

教頭 説明要旨：年3回のアンケートでは深刻ないじめは確認されていない。しかし、保護者への調査で「いじめ防止基本方針の内容を知らない」という回答が多いことが課題となった。従来の冊子は行政文書が多く分量があるため、今年度はポイント（いじめの定義、3ヶ月間の継続停止などのいじめ解消の2条件）をイラストで平易に解説した「1枚の視覚的リーフレット」を新調した。これを全戸配布し、周知と意識のボトムアップを図る。

6. 地域の特色を生かした教育活動の充実についての説明

副校長より、外部の地域資源を活用した取り組みが「モノ」と「ヒト」の切り口から説明された。

①「モノ（環境インフラ）」の活用：円山動物園、藻岩山ロープウェイでの自然体験、サッポロファクトリーや市民防災センターの活用。また、徒歩圏内の「地下鉄自衛隊前駅」を利用した乗車学習（マナーや切符購入）は、将来の自立に向けた重要な生活経験となっている。

②「ヒト（地域人材）」の連携：近隣町内会と協働する「フラワースマイル大作戦」では、車椅子の児童生徒が扱いやすい「高さ1mほどのプラスチック製ドラム缶型花壇」を地域の方々が工夫・設置してくれている。その他、Kitaraでの音楽体験、JICA留学生との異文化交流、アイヌ文化学習などを展開している。

これらを踏まえ、地域と教職員が手を取り合い、いかに教育をアップデートできるか「熟議」への参画が求められた。



7. 熟議（グループディスカッション）

参加者を2グループに分け、「KJ法」を活用した約1時間の意見交換を行い、その後全体で共有した。

【Aグループ：外への発信とチーム真駒内】

バリアフリー情報のアップデート： コロナ禍で校外学習が縮小し、街の最新情報が不足していたが、地域委員より「赤レンガ周辺」や「北広島のエスコンフィールド」等の優れたバリアフリー環境の情報提供があった。これらを今後の計画に反映する。

外向け販売会・作品展の提案： 学校を知ってもらうため、大通公園、チカホ、自衛隊前駅などの公共空間へ出ていく。その際、特定の学部だけでなく、小学部から高等部まで縦のラインで連携し、一貫性（下の学年の憧れとなるストーリー）を持たせる。

「チーム真駒内」の創出： 学校単体ではなく、近隣校や町内会を巻き込んだネットワークによる共同イベントを創出し、自然な理解を広げる。

【Bグループ委員からの提案】： ゼロから企画するのは負担が大きいため、東区の「ほっこりプロジェクト」など既存の道立学校ネットワークに相乗りさせてもらう方法が現実的ではないか。

【朝倉会長の感想】： 肢体不自由児が外に出る壁は厚いが、こうして地域の多様な立場から「可能にするルート」の知恵が集まることに、本協議会の大きな意義がある。

【Bグループ：校内巻き込み型交流と大人のマインド】

「地域」の再定義： 広域通学のため「居住地」と「学校周辺」の乖離があり、交流が卒業後に生きにくい課題がある。

発想の転換（校内への巻き込み）： 外出が難しいなら、外部が来たくなる魅力的なテーマ（アート、音楽、光など）を校内に設定する。12年間を見据えたストーリーを持ち、全員参加できる全校プロジェクトにする。

具体的アイデア（モザイクアート）： 外部の専門家や大学生を招き、各々の手法で制作した作品を貼り合わせ、巨大な「全校モザイクアート」を創出する。

「新たな発想でチャレンジ」の解釈とイベント案： 四角四面な立場を忘れ、教員が子ども目線で心から楽しんでワクワクの波を作ること。「全校ギネスに挑戦！超巨大のり巻き大会」のような本気のイベントを仕掛けることが、ウェルビーイングに直結する。

【地域代表委員からの回答】： のり巻き大会などの要請があれば、町内会や婦人部は喜んで学校へ出向く。「外に出る大変さ」があるなら地域が学校へ行く。メディア取材を巻き込むようなお祭り騒ぎになれば、学校の素晴らしさが社会へ知れ渡る起爆剤になるため、ぜひ実現してほしい。

副校長より、これらの貴重な意見を今後の学校経営に確実に活用・具現化していく旨が述べられた。



8. 閉会挨拶（朝倉会長）

PTA 会長より、総括を兼ねた閉会の挨拶が行われた。

会長 閉会挨拶要旨： 密度の濃い議論に感謝する。日頃から現場を支える先生方の手厚い努力のおかげで子どもたちが豊かな学校生活を送れていることに、保護者を代表して心から感謝する。保護者側も先生方の努力を知り、直接「ありがとう」と伝えていくべきだ。感謝の言葉が先生方のやりがいを生み、それが子どもたちへのさらなる優しい関わりへと還る。「感謝の好循環」を皆様と共に作っていききたい。

9. 事務局連絡および閉会

次回「第2回 学校運営協議会」は令和8年9月14日（月）15時15分より開催予定である旨が伝えられた。その後、事務室での手続きの案内を経て、11時50分にすべてのプログラムを終了し、閉会した。